

第28回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成29年3月28日（火） 13：00－15：00

2. 場所：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、下村委員、中須賀委員、中村委員、
松尾委員、松本委員、薬師寺委員、渡邊委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、松井参事官、行松参事官、高見参事官、
佐藤参事官、守山参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課長	堀内 義規
経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室長	轟田 将範
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構研究戦略部長	石井 康夫
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 SSPS 研究チーム長	大橋 一夫

4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

(1) 部品に関する技術戦略の策定等について

資料1に基づき経済産業省から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○部品・コンポーネントは種類が多く、日本だけですべてに対処することは困難なため、例えば欧州など海外との協力も重要。

●ESAなど海外の機関ともコンタクトをとっている。

○10ページにある Makesat.com など海外展開に向けた取組は重要。海外の状況を見ても日本メーカーの宇宙用部品を売っていくチャンスはあると思われるので、手続きの面などで支援して欲しい。

○これら取組と並行して知財戦略も検討していく必要があるのではないか。

(2) 宇宙太陽光発電システムに関する取組状況について

宇宙太陽光発電システムに関する取組状況について、資料2に基づき経済産業省から、資料3に基づきJAXAから説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○経済産業省と文部科学省／JAXAで協力して取り組んでいるとのことで評価できる。両方で研究者の取組をうまく統合して進めていっていただきたい。

○海外の状況と、日本の立ち位置は。

●アメリカは軍や大学等に取り組んでいる。中国でも学会が開かれており、UAEでも新しい産業、エネルギーとして取り組み始めている。日本は送電効率で進んでいると認識している。引き続きリードできるよう取組を継続していく。

(3) 宇宙基本計画の工程表改訂に向けて

事務局から、資料4に基づき宇宙基本計画の工程表改訂に向けて重点的に検討する事項の案について説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○リモートセンシングについては、予算の制約の中で学術・実用の両面を意識して、長期的な戦略を練る場を作るべき。

(4) 宇宙産業振興小委員会の検討状況について

事務局から、これまでの宇宙産業振興小委員会の検討状況について資料5に基づき説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○長期的・持続的な戦略の検討は重要。

○人材育成・活用については、人材の流動性を高め、さまざまな人材が交流し、連携できることが重要。

以 上